

## 国公立大前期まで 計 198 (40) 名合格

\* 医学部合格者を含む。( ) は既卒生で内数。

東京大 2 (1) 京都大 5 (0) 大阪大 6 (2) 神戸大 4 (3)  
九州大 23 (6) 東北大 1 (1) 東工大 2 (0) 一橋大 2 (0)

岡大 14 (2) 広大 11 (0) 山大 65 (13) 筑大 2 (0) 横国大 1 (1)  
お茶の水大 2 (0) 電通大 1 (1) 東京海洋大 1 (0)  
東京学芸大 1 (0) 東京農工大 1 (0) 信州大 2 (1) 静岡大 3 (1)  
奈良女大 1 (0) 京都工繊大 1 (0) 鳥取大 1 (0) 島根大 2 (2)  
徳島大 2 (0) 愛媛大 1 (0) 九工大 3 (0) 福教大 4 (0)  
長崎大 2 (0) 熊本大 2 (2) 大分大 3 (0) 宮崎大 1 (0)

国際教養大 1 (0) 都留文科大 1 (0) 名古屋市立大 1 (1)  
福知山公立大 1 (1) 大阪市立大 2 (1) 神戸市外語大 2 (0)  
岡山県立大 1 (0) 県立広島大 2 (0) 島根県立大 2 (0)  
山口県立大 4 (0) 山口東京理大 2 (0) 下関市立大 1 (0)  
北九州市大 5 (1) 九州歯科大 1 (1)

## 医学部医学科 計 16 (9) 名合格

山口大 11 (5) 京都大 1 (0) 自治医・防衛医大 1 (1)  
私立大 3 (3)

## 主な私立大 計 369 (101) 名合格

早稲田大 6 (0) 慶應大 2 (0) 中央大 5 (1) 明治大 3 (1)  
東京理科大 6 (1) 青山学院大 3 (2) 立教大 1 (0) 北里大 1 (0)  
東女大 3 (0) 同志社大 8 (2) 立命館大 46 (17) 関学大 15 (2)  
関西大 7 (3) 西南学院大 26 (4) 福岡大 67 (13)

\* 私立大の合格は本人の報告に従っています。

## 逆風の中でのチャレンジ

季節はもう春。あっという間に1年が過ぎていき、令和3(2021)年度大学入試も一部の私立大と中後期国公立大の発表を残してほぼ終わりました。

左の表は先輩たちの前期までの結果です。昨年は難関大合格者数、医学部・医学科合格者が2000年以降で最高レベルの数字となりましたが、今年もそれにひけをとらない立派な数字だと思います。また、地方大等も含めた合格者数はこれまでにない高水準の結果となりました。合格した人も残念だった人も、3年生たちは本当によく頑張ったと思います(そして彼らを支えてきた保護者の方や先生方も)。

制度改革元年の入試は「手堅く安全に」という傾向が目立ちます。加えて今年は「感染症流行」というもう一つの問題を抱え、3年生は「安全志向」傾向のもとで「初志貫徹」か「リスク回避」かで受験先の選定に悩んだことと思います。実際の前期出願状況を見るとA～B判定の受験先を選択した人は104名でした。2018年：94名、2019年：89名、2020年：103名ですから、昨年からの「手堅い受験」の傾向は依然として続いているといえます。特に今年は全国動向が予測しがたいため、念のために本来なら受験しないであろう大学に出願したり、私大の共通テスト利用試験をこれまで以上に出願するような動きもありました。また、国公立大前・後期に出願はしているのに「〇〇大に合格したからもういい」などの受験回避の動きも目立ったように感じます。怠け者が入試で苦しむのは当然ですが、「厳しい目標に向かって努力してきた」真面目な生徒が迷いを抱いてしまう、そういう難しい状況が今年の入試にはありました。

しかし、一定以上の成績を取っていなければ、判定のよい大学に出願したくても出願のしようがありません。迷い、動揺しつつも104名もの生徒がA～B判定の志望先に出願できたのはなぜか？ それは「今これをやっておかないといけないぞ」「これをやればここまで伸びるぞ」「この時期にこれをマスターしてほしい」という明確な目標が先生方によって1年次から常に提示され、多くの生徒がそれにきちんと取り組んできたからではないでしょうか。もちろん彼らの中には「宇宙人」としか言いようのないものすごい才能の持ち主もいますが、生徒同士も先生も皆が足並みをそろえて一つ一つの途中目標をきちんとクリアしてきたことが今回の出願と結果につながっていると思います。

受験の成功は生徒と先生と保護者の三者の一致と協力がなければ不可能です。今年も土日自習でも保護者の方に大変御協力をいただきました。生徒と教員、そして保護者の方々の最善の努力がすばらしい結果につながったとも言えるでしょう。

## 今の状況を変えるために「何もしない」はない

さあ、2年生のみなさん、いよいよみなさんの出番です！ 受験に参加する「心構え」はできてますか？ 今の2年生の改善点は「学習の習慣化」と「苦手教科の克服」です。今年の3年生が残してくれた「一つ一つの目標をクリアすれば結果は残せる」という教訓に従えば、皆さんに求められるのは「何があっても毎日必ず勉強する」、「分からない、できていない」ことを一つずつ丁寧に片づけていくことです。この春を自分の学習スタイルの改善と苦手科目の克服に使ってください。今なら間に合います。

＝ ちょっと毒があるけど、あえて言わせてください ＝

勉強嫌いだとか苦手だとか言っている1年生も2年生も、この春休みをいつものように過ごすなら、笑って3年の春を迎えることは・・・難しいでしょう。先生にもっと質問しましょう。課外も積極的に受けましょう。もっと自習に来てください。

「自分のペースで」なんて甘ったれたことを言わないこと。自分のペース、自分のスタイルが通用しないからこそ、いつまでも苦手が苦手のままになっていることに気付いてください。今のままじゃいけないと分かっている、でも自分で自分を変えられない。そういう人は、学校の環境や先生の支援を上手に使ってください。学校で勉強しよう！

スマホ？ネットゲ？そんなことしながらでも合格できる大学に行って嬉しいのなら、それで保護者の方も満足してくれると思うのならそうしてください。やめたくてもやめられない人、本気でどうにかしたいのなら学校で勉強しよう。変えるべき点が明らかなのに何もしないという問題は最も深刻です。分かって変わろうとしない、そのツケは1年後、2年後に必ず返ってきます。

先輩の残してくれた教えに従い、「毎日勉強に取り組み、基礎・基本を疎かにせず、分からないことを一つずつ潰していく」ことを大事にしましょう。「部活が終わってから始めても何とかなるんじゃないか、高校入試の時は何とかいけたぞ」・・・そんな幻想は捨ててください。学習で遅れをとっている人が他人と同じタイミングで努力をはじめても先を行く者との差は縮まりません。皆が動かない時に動きは始めるからこそ差を詰めることができます。

**3年生になってからの短期間の勉強で何とかなるほど大学入試は甘くありません。**

**合言葉は「今動こう!」です。**

(どこかのシューズメーカー風言えば just do it now! ですかね)

## 自分はどうあるべきか？

2年生の皆さん（1年生の皆さんも）、この1年間、自分の「脳」を「わくわくさせ／喜ばせ」ようと意識していましたか（難関大集会の話の思い出してね）。「嫌だ」とか、「つまらん」とか自分にストップをかける否定語を使っていたりしてないですか？ ぐんぐん伸びていく人は、脳を正しく喜ばせる人でしたね。そんな人は、

- ① **すぐに決断し、実行する。**
- ② **感度のいいアンテナを持っている。**
- ③ **おしゃべりで、よく笑い、自然に仲間ができる。**
- ④ **疲れな脳を持っている。**
- ⑤ **ものすごく悔しがる。**
- ⑥ **小さな達成を繰り返す。**
- ⑦ **一つ上をめざしている。** という特徴を持っています。

そして、現役で「難関大／大学」に合格するためには、

- ① **偏差値でなく、素点でめざす。**
- ② **英語を得意科目にする。**
- ③ **小テスト、課題考査、定期考査にこだわる。**
- ④ **テストは「何が、どこができなかったか」を大切にする。**
- ⑤ **駿台全国模試をひるまず続けて受ける。**
- ⑥ **部活を勉強ができない口実にしない。**
- ⑦ **本気で医学部をめざすなら、泣き言を言わない。**
- ⑧ **一つ上をめざす！** ことが必要です。

本気で上を目指した方がいいと絶対に思います。自分に負荷をかけて本気で走らないと走力も持久力も向上しないように、学力伸長のためには一つ上を目指すことで「自分に負荷をかけるべき時にかける」ことが欠かせません。また、人間は「妥協する」生き物です。何をしてもつい「これくらいでいいか」と妥協的に負荷を設定してしまいます。自分の力を出し切るためには「一つ上を目指す」姿勢が必要です。そこで、山口高校の進路における全体指導では、国公立大学を主として「一つ上の大学を目指せ」と言っているわけです（もちろん私大受験を否定するものではありません）。

本当の受験には時間と手間がかかります。**時間がある今こそが「天与の好機」。**そう思っ**てみんなスタートを切りましょう。**